

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域社会の一員として地域の中に出て行く機会を多くしている。</p>	○	<p>グループホームの近くの独居者の支援(食事の提供、安否確認、緊急対応)</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念の暗唱や社内研修の実践を通じて、理念の共有に努めている</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>御家族への「たより」を通じて理念の浸透を図っている。自治会活動への参加</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の商店と一緒に買物に行ったり、散歩のときの挨拶など顔なじみの関係を作っている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会活動への参加や、地域の人が行事に参加できる機会も作っている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>近くの独居者の生活支援見学者の受け入れ</p>	○	<p>食事の提供・安否確認・緊急対応などグループホームが地域にあることによって高齢者が安心できる支援を行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の問題ではなく、利用者の暮らしの場として常に改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政の人の参加の機会が少ないので運営推進会議を通じ理解をしてもらっている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	時あるごとに広域連合とは情報の共有を行っている。町とはパートナーとしての認識を持っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	本人の意思が第一であるが、権利擁護事業を利用するよう支援している。	○	担当者不足らしいが、おおいに今後も利用して行きたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	委員会を作り、拘束にならぬよう学んだり事業検討する等防止に努めている。	○	
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時だけでなく、内容によってはその時々説明している(特にターミナルについて)	○	ターミナルケアについては数度の説明が必要と感じている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満等苦情については適切に対応している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	請求時や面会時、たよりの発行等で常に報告するように努めている。	○	たよりの発行、請求時の近況報告
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の不満や、苦情についても記録すると共に適切に対応している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、定期的面接を通じ意見の反映の場を作り、必要なものは実践している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や職員の勤務状況について適切に対応している。	○	食事担当職員の導入。利用者のケアに対応できる時間の確保の為。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動については利用者を第一に考えチームケアが出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修、社外研修を通じ育成に力を入れている。	○	介護福祉士の資格取得に努めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	日高管内のグループホームは100%道協議会に加入しており、相互の交流や研修生の受け入れも行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	全体での新年会、先進地視察、飲み会、個人面接を通じ努力している。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	定期幹部会議(月1回)を持ち各事業所の把握と職員の状況理解に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から利用まで、どう対応することが本人、家族にとって一番良いのかを共に考えている。	○	グループホーム利用が絶対的住み家ではないことを説明する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	23と同様、家族と十分に話し合っている。		グループホーム利用が絶対的住み家ではないことを説明する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入居だけが暮らし方ではなく在宅での生活の継続の可能性についても話合っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の状況に応じて、適時に応じた対応を取っている。		人によっては練習のショートステイもある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	観察するのではなく我々が観察されているという理解と、本人の意思よりも周囲の要因により連れてこられた人との理解をさせている。	○	説明よりも、実体験を通じ本人の五感を生かすケアに努めている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	我々は家族ではなく、家族には家族の役割があることを説明し、面会の機会を多くするように話している。	○	行事等は家族の参加を求めて、一緒に楽しむ場を提供している。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の希望を受け入れ、良好な家族関係が継続できるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	サークル、趣味、宗教などまでなじみの関係を求める人には対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	相性は変える事が出来ないが、一緒に暮して良い関係が続けられるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ターミナルまで行っているため、本人との関係は無いが、家族とはよき理解者として交流している人もいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者第一をモットーとして努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の利用や面会時などに家族からの情報をサービスに活かしている。	○	利用者の話を日常的に職員が聞いてあげられるようにしたいものです。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	無理の無いよう、本人にとって安心した場となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングと本人の希望を入れたケアプランに成るように努めている。	○	グループホームにケアマネが必要とされている以上ケアマネと職員が一体となり、本人の暮らしを支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	2ユニットになってから、2ホームの足並みがなかなか揃わない状況では合ったが、話し合いを多くすることで介護計画の見直しをスムーズに実行できるようになってきた	○	介護支援専門員と情報の交換をたくさん持つよう話し合いをしている。 介護支援専門員の専門性を活かしたチーム計画にする。
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録や実践、結果が上手く結びつかないことも多いが、言語化、文章化にする意味を理解できるようになってきた		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	空き部屋が出来たときのショートステイやグループホームにおけるデイサービスの利用で待機者の支援を行った。	○	空き部屋が無くてはショートステイが使用できず、タイミングがなかなか難しい。ニーズに応えるようにはしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	様々な機関と協力し、相談に応じ必要あれば、自主事業も含め支援している。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	居宅支援事業については、他の事業者との話し合いや要望を受け入れ、認知症高齢者や家族支援につなげている		会議等への参加は100%である。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターは本年度4月からであるが、行政との協働は現在でも十分に行っている。	○	権利擁護制度については、出来るだけ利用を進めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	月2回の往診、緊急時への相談、対応、いつでも連絡をし管理・支援をしてもらっている。	○	ケース検討会議に医療職の参加を求めてゆく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医ということではないが、職員の悩みや思いを受け止め、相談・アドバイスをしてもらっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護や相談・アドバイス等、常に協働、支援してもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	かかりつけ医の先生に相談、退院後の状況を理解し医療管理をしてもらえるシステムになっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族の意向を尊重し、終末期に向けてかかりつけ医(主治医)の協力の下、方針を全員で共有している。	○	かかりつけ医も終末期には家族によく説明してくれている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームで何度も話し合い、家族に説明をし、方針の共有をしよう。	○	死を受け入れることについて、利用者にも理解されるよう居間にベッドを置いて全員で見守る場合もある。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報の少なさで、対応に苦慮することが多く手探り状態でケアにあたっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	大きな声で対応しない		大きな声で対応しない、気持ちを大事にするといった判っていてもつい云ってしまう声掛けをグラフに書いてみる。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	耳の遠い人には、紙に書いてもらったり絵を見てもらったりしながら意思を伝える。		出来るだけ本人が決定できる選択肢を提供していく。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を押し付けないようにしている。		職員の都合を押し付けないようにしているものの、結果はよりよく進まないことが多い。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	行きつけの美容院や理容室へ行ってもらっている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みの物が食べられる催し物を毎月組み込み、ふだんと違ってその人が食べやすい状況にして楽しんでもらう。		以前は手伝いや片付け等を積極的にされていた人たちが、身体的低下と共に意欲が無くなり、こちらからすすめても面倒くさいと拒否される。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好を聞きながら、おやつや飲み物等を飲食していただいています。タバコも食後の時など好きな時に吸っていただいています。		本人が希望をする時は、出来る限りスタッフも一緒に話をしながら支援しています
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄シートを作り一人ひとりのパターンを把握する様に努めています。出来る限り布パンツを使用して頂くようにしています。		尿意が、有る・無いにかかわらず昼間は布パンツで対応するようにしています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に沿って入浴もありますが、まだ、職員側の都合で入っていただく事が少しあります。	○	時間帯など本人の希望に沿うことが出来るように努めたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人が食後等横になりたい時など、いつでもソファに横に立ったり休んだりしていただいています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎食後のテーブル拭き、茶碗拭きなどお手伝いしていただいています。ドライブの好きな方は一緒に出かけたりしています。街での催し事にも出かけています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が理解している人、いない人にもあまり使える様支援している場面づくりが足りない。	○	理解が少しでもある人には一緒にお店などに出かけて行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かい日には外へ散歩に行かれたり、ドライブも頻繁にしている。利用者から家族に会いたいと希望があれば会いに行ったり、町の行事等にも積極的に参加をし、外に出かけることの楽しみを実感していただける様取り組んでいます。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事を通し一緒に出掛け、離れて暮している家族とより良い交流を深めていただいている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの電話の要望はありませんが、家族が面会に来ないときによって不穏になられた場合は、電話を書け声を聞くことで安心されます。家族から手紙が来た場合本人に渡し、自室に飾っています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホームの中での行事に参加して頂いたり、ホーム内に写真を貼ったりしている。気軽に訪問して頂ける様スタッフ一同常に笑顔と気配りに力を入れながら家族の方と接しています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月に一度身体拘束会議を開き、スタッフで拘束について話し合いを行っている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外に出て行かれる利用者の方はいますが、鍵を掛ける事はせず、常に周りを見て突然出て行かれてもすぐに対処出来るケアをスタッフ一同心がけ取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	24時間体制で様子を把握し利用者の方の安全に配慮し安全確認をしています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品の保管、管理は目隠しの状態にしてあり、又、別の部屋(鍵)の保管、管理をして危険防止に取り組んでいます。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	足、腰の弱い利用者には歩行器を利用してもらいスタッフが見守り、行動する。又、経験者の先生方の講演、映画、研修会等に出席し、知識を学び事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	常に急変や事故に備えて救命講習及び実技講習と全てのスタッフが訓練を受けています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災・地震等の災害時を想定し訓練を実施し又、昼夜を問わずの連絡網を取り、日頃から地域の方々とは仲良くなれるよう協力と努力をしている。	○	
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の方に何か変化があれば、すぐに家族に報告している。抑圧感の無い暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一日一日の体調変化はその日のフタッフと話し合い表情・行動を観察させて頂き、情報を共有させていただいています。場合によって利用者に異常・体調不良が見られる場合は病院受診の対応を取らせていただいている。	○	これからも、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については、処方されてから利用者の症状の変化を追っていき、引き続き必要と思えば継続して飲んでいただき、以前と比べ不必要だと思えば抜いたり等して様子を見ています。	○	これからも、利用者の症状の変化と、それに伴った医師の判断で薬は処方して頂き継続させて頂きたいです。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防にはほぼ全員のスタッフが取り組ませて頂いています。便の薬、適度な運動、食べ物と全体的に予防策に努めさせて頂いています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔に関しては、毎日実施させていただいています。口内炎等の予防に努めさせて頂いています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その利用者に沿った食事量や水分量を把握させて頂き、必要な量を取っていただくようケアをさせていただいています。場合によってはスタッフの介助で飲食して頂いています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防の為に、消毒液(塩素系)の使用をさせて頂いています。トイレ使用后、外出後等も、手洗い等をしていただいています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	月に1～2回程度冷蔵庫の掃除をしています。調理後の台所周りも毎回、その度に掃除をしています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	その四季に合った装飾をしています。特にホーム内や玄関に関しては、イベントのときの写真、四季にあった小物等を飾らせていただいています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂き、入りやすくなじみやすいホーム内にしたいと思っています。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者のプライバシーにも考慮し、落ち着いて生活出来る様、うるさすぎない飾りや不快に感じない証明等に気をつけて頂いています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に小上がりを設置し、玄関付近にも利用者が一人でもくつろげる様、長いすを置いたりという対応をさせて頂いています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	御家族には本人が昔使用していたなじみの物を持ってきて頂き、本人の居室に設置させて頂いています。	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行わせて頂いています。(台所付近・居室の空気洗浄・トイレ等)	○	これからも引き続き、この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりの取り付け・段差をなくしバリアフリーにさせて頂いています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ等に張り紙(本人が便所と認識出来る様に)</li> <li>・自室の入り口に本人の顔写真の貼り付け(本人が自室であると認識出来る様に)</li> </ul>		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームの近くに椅子・テントを備え付け、夏になるとそこで日向ぼっこをしていただいています。</li> <li>・畑等を作り、スタッフと一緒に手伝っていただいています。</li> </ul>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

一人ひとりの利用者、スタッフのカラーを大切にされたケアです。一日一日を大切に理念に沿ったケアに力を入れています。